

## 革新懇運動への期待と注文

五十嵐 仁（法政大学大原社会問題研究所前教授）

〔以下の論攷は、『全国革新懇ニュース』第365号、2014年12月・2015年1月合併号、に掲載されたものです。〕

大きく変わった政治状況下、運動の刷新を

安倍首相の再登場とその「暴走」によって、日本の政治状況は大きく変わりました。戦後政

治の全面的な反動化と戦争への加担を目指し、海外で「戦争できる国」づくりへの本格的な攻勢が始まったからです。

### 極右の登場

このような変化を踏まえ、新たな局面への対応に努めることが革新懇運動にも求められています。

第1に、「極右」対「保守」の対抗という、これまでにない局面が生じました。安倍首相は従来の保守とは異なる急進的な右翼民族主義者として、これまでの自民党政治の枠組み自体の改変を課題としています。そのために、旧来の保守体制を担ってきた勢力との一定の亀裂と矛盾を引き起こすことになりました。

第2に、このために「保守」と「革新」との間に新たな関係を構築する可能性が生まれています。とりわけ、9条改憲、集団的自衛権行使、沖縄の新基地建設、消費税増税、原発再稼働、TPP参加などの課題をめぐって、良心的な保守無党派層と革新勢力との主張や要求の共通性が生ずることになりました。

第3に、このようななかで、青年・学生層でも放射能の恐怖や戦争への不安が増大し、政治への関心が高まり、行動へのエネルギーも強まっています。特に、脱原発に向けての官邸前行動、

【論巧】 革新懇運動への期待と注文

特定秘密保護法や集団的自衛権行使容認に反対する運動、安倍やめろドラムデモなど、多彩で独創的な運動への若者の参加も目立つようになりました。

革新3目標

第4に、これらの要求や運動はいずれも平和・民主主義・生活向上という目標にもとづく政治革新なしには実現できません。それは「革新3目標」の今日的な意義の高まりということであり、革新懇運動にとって有利な条件が新たに生じたということを意味しています。

このような新たな条件を生かすかたちで、革新懇運動の刷新を図ることが必要になっていきます。そのためには、以下のような点に心掛けることが大切でしょう。

第1に、個々の政策課題での要求の一致に基づく共闘の実現に力を入れなければなりません。このような「一点共闘」によって、運動の幅を画期的に拡大することが必要です。そのような経験は、沖縄での新基地建設反対運動はもとより、脱原発や反TPP運動などでも蓄積されてきています。

過去を問わず

第2に、新たに運動に加わる人々の過去を問わないという態度が必要です。これまでどのような立場でいかなる主張を行っていた人でも、現在の課題において共同できるのであれば手を結ばなければなりません。それまでの立場や主張を変えて協力しようというわけですから、その過去を問題とすれば協力は不可能になってしまいます。

第3に、運動の継承と発展のために、若者の参加と世代の交代などに留意することです。ベテランや高齢者の知恵と経験は貴重ですが、若者の参加は運動の継承にとって不可欠です。そのため、若者の参加しやすい企画や場の設定に配慮しなければなりません。

第4に、そのためには運動手法の刷新が必要です。IT手段の活用などバーチャルな世界と、集会、デモ、署名活動、シンポジウム、講演会や映写会などのリアルな世界とを組み合わせることで若者など幅広い層への情報発信に努めることです。その点で、ツイッターやフェイスブックなどSNS手段が有効であることは、この間の経験でも明らかになっています。

自己革新によって成長を続ける組織こそ、次の世代を引き付ける魅力を発揮することができます。革新懇もそのような組織であって欲しいと思います。

今日の日本政治が陥っている混沌状態を脱し、新たな政治革新の実現に向けて大きな役割を發揮することを期待しています。安倍政権と真正面から対峙して「暴走」をストップさせ、政治を根本的に変革することなしには、日本という国の未来は開けないのですから……。